

発表タイトル	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画
発表者所属名	日本文学研究専攻 教授
発表者氏名	寺島 恒世
<p>日本文学研究専攻の基盤機関である国文学研究資料館では、平成26年度から「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築」事業を実施しています。</p> <p>この計画は、人文社会科学分野では初の、そして現時点では唯一の「大規模学術フロンティア促進事業」として、国文学のみならず、人文科学全体、さらには自然科学系の諸分野にも及ぶ成果が期待される事業として注目を集めています。</p> <p>本計画では、研究基盤整備として、「日本語の歴史的典籍」約30万点を画像データ化し、既存の書誌情報データベースと統合させた「日本語の歴史的典籍データベース」の構築を行い、そのデータベースを活用した異分野融合型の共同研究を展開することで、日本語の歴史的典籍に関係する国際共同研究ネットワークを構築することを目指しています。</p> <p>本計画の実施にあたり、拠点大学として国内の20大学（※）に参画いただいております、また、国文学研究資料館の学術交流協定機関と中心とした海外の大学・研究機関等とも連携を行っています。人間文化研究機構内としては、特に、国立歴史民俗博物館（日本歴史研究専攻の基盤機関）、国際日本文化研究センター（国際日本研究専攻の基盤機関）、国立国語研究所の3機関と連携し、「総合書物学」という新領域構築へ向けて、人間文化研究機構の法人第3期中期目標期間の主要事業の1つとすべく、その準備を進めています。さらには、理系分野、たとえば医学や数学（和算）の古典籍を巡る研究も開始しています。</p> <p>27年度には、総研大の学融合研究事業として「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」（研究代表者：極域科学専攻 片岡龍峰准教授）が採択されました。この研究は、歴史的な古文書中のオーロラ及び太陽黒点記録のアーカイブをコンテンツの1つとするウェブサイトの構築を目指す研究で、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築」事業との連携により実施されるものです。</p> <p>本事業の実施により、さまざまな分野の研究の深化や、これまでになかった異分野融合の研究の展開など研究に関する成果のほか、画像のデータ化による文化財危機対策としての成果なども期待されています。</p> <p>（※）国内の20拠点大学 北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、広島大学、九州大学、慶應義塾大学、國學院大學、立教大学、早稲田大学、大谷大学、同志社大学、立命館大学、関西大学</p>	